

東教大へ機動隊

学校の要請で占拠排除

紛争で封鎖、占拠が続いている東京教育大学(本部)東京区大塚、野島南園学舎及びは二十八日朝、警備隊に対し占拠学生
の排除を要請、同日は午前十時半、制、私服の警官約六百人を大塚の本校(本義、文、理、教育各学部)と目黒区野島の農学部に出動
させた。しかし大塚の構内では、学生が自衛的に逃走、野島の農学部でも警官隊に包囲されて校外に退避したため、逮捕状の出ている
学生一人が逮捕されただけで混乱はなく、校舎のバリケードは教職員約百人の手で、翌年六月二十六日の文理学部のスト入り以来、二百
四十日ぶりに全部撤去された。大学側はこのあと「当分の間、学生の構内侵入の禁止する」との掲条を出した。

同大学では体育学部を除く四学
部が現在なおスト中だが、紛争が
八カ月以上に及び、教育、研究機
能がマヒしているうえ、体育学部
(渋谷区西原)の入試が三月三日
から始めるため、大学側では二十七
日、学外で学務執行の所信表明集
会を開き、学生に「占拠をやめる
よう」を要請した。集会後、教
職員百人が大塚構内にはいり、ハ
ンドマイクで占拠学生に退去を呼
びかけ、さらに再度の退去命令を
出したが、二十八日朝になっても
大塚構内と農学部は反代々木、代
々木南園学生約三百人がたてこも
っていたため、機動隊の出動要請
になった。

この日逮捕された学生は文理学部
闘争委員会幹部、西洋史学専三平
松浦貞二と同学部三年中川和夫
(三)で、翌八日同大学南園学舎
田代校長が三人を不承認とし、
暴力をふるった疑い、警備隊公使
一帯は捕縛された。同日午後、
た日部五〇一教室などの場外遊説
も行なった。

同大学では昨年六月二十日、評
議会が筑波山々く研究学園都市へ
の移転調査費二千八百万円を予算
要求の項目にかかげたことから

「移転は学内各団野合につながら」
と反対していた学生側が反発、ま
ず文理学部自治会(反代々木系)が
スト入り、九月下旬からは理、教
育、農の三学部自治会代々木系
もストにはいった。このためスト
をわけていない体育学部を除く四
学部の入試中止が決っていた。

東京教育大学 明治五年、
同校(一)のあとに「創始学校」
の名で創立された東京高等師範と、四
和四年創立の東京文理大を主体
に、東京農教専門学校、東京体育
専門学校が合併して戦後発

教官の対立 あおる恐れ

足した教員養成中心の総合大学、
文、理、教育、農、体育の五学部
で学生数約四千人。文、理、教育
三学部は東京区大塚、農学部は目
黒区野島、体育学舎は渋谷区西原
にある。

「解説」学内のバリケードは撤
去されたものの、東教大紛争の前
途はなお多岐なようだ。もともと
紛争の発端は教職職士の抗議移転
問題をめぐる教官内閣の対立。学
生側は教官のケンカに同調した者
らもいるが、根本の教官の対
立は解消されるどころか、ますます
激化の傾向にある。入試から教
育人事まで、構内のすべての問題
が移転問題からめぐる考えられる
のが最大の同大学の特色だ。

移転反対派の文理学部教授会は二
十七日の学務部長代行(蓮澤部
長)の所信表明集会までサイコッ
ト、これに対して学務代行は所信
の中で「気持ちは既定方針。こ
れにあくまで反対する文理学部の
態度が紛争の根拠」ときめつけると

けした。今日の野島隊進入にも
文理学部教授会は「絶対反対」の態
度を要す。学務部長代行の職務
で警備隊に出動を要請する結果に
なったが、これがまた新しい火ダ
ホとなり、教官紛争をさらに
あおることにわたりかねない。

もう一つ同大学の紛争の特色は
大塚と野島の対峙の不足であ
る。学生側は反代々木(文理学部自



機動隊に包囲され、学外に退去させられる東教大の学生たち
(東京・目黒区野島の農学部)

治会中心、代々木(理理学部など
四学部自治会中心)両派とも「大
家同文」を要求したが、大学の最
高責任者が学生と直接、話し合いの
機会をもったのは昨年六月のスト
入り以来、二十七日の所信表明集
会が初めてだった。評議会は昨年
十二月末、いったん学務集会の開
催を決めたが、集会に臨む大学の
基本態度をめぐる、これまた文
理学部と他学部が対立してお断れ。
三福光雄学務長は在任六カ月の
間、大塚のキャンパス内に一度も
足を踏み入れないまま在任した。
三福氏に代って奮闘した宮島副学
長代行は学内のタカ派。「全教集
会が紛争解決の唯一の手段とは考
えない」と強硬するが、集会には
参加しなかったと見られる。